

2025年
7月1日
第497号



JR東海労



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

JR東海労働組合

発行人 淵上 利和
編集人 高山 浩

http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/

全組合員で組織展望を切り拓こう！

第43回定期大会開催



JR東海労は6月8日、名古屋市内で第43回定期大会を開催しました。オープニングでは、袴田ひで子さんからのビデオメッセージを披露しました。また、多くのメッセージが寄せられました。議長に今田代議員(新幹線関西地本)を選出しました。淵上委員長の挨拶の後、来賓のJS労働委員長、本部OB会増田会長よりそれぞれ挨拶を頂きました。質疑、各部答弁、本橋書記長の総括答弁を行い、大会は成功裏に終了しました。

新たな労働組合像に意識を転換しよう！

淵上執行委員長挨拶 (要旨)

今大会には、袴田ひで子さんからのビデオメッセージを見ていただいたように、組織、個人、多くの方からメッセージを

頂いています。JR東海はJR総連から脱退しましたが、決して孤立していないということがこのメッセージは示しています。私たちに、共に闘う仲間が、多く存在することを示しています。『ACCESS』からの取材を5月8日に受け、720号にその内容が掲載されています。JR東海労としてこれからどうしていくんだ、ということが簡潔に良くまとめられていると思います。私の所と併せてぜひ、他の記事も読んで頂きたいと思えます。JR連合、JR東海ユニオンがまさに会社の代弁者であることをより明確にしています。その質は、まさに御用組合というレベルを超えて、国家権力の意思を労働組合として具体化していく産業報告会化していると思えました。そしてJR総連小林書記長の記事は、JR総連としての運動と組織を強化して

いく方針は全く記事からは感じられません。春闘において、賃金格差が拡大したとの問題は言われていますが、では単組とどう連携して産別として闘いをつくり出していくのかは全く触れられていません。同じことの繰り返しです。従って、JR総連の組織展望はないということでは、

必要はありません。JR東海労の闘いの阻害物ではないということでは、JR総連は、意見が対立する組合員を一部指導者と呼び組織破壊者としてデッチ上げ、それに追随する組合員の排除を繰り返すことによってJR総連は全く求心力をなくした組織となり果てました。まさに、上が決めたことが絶対とする全体主義化した組織となりました。従って、今後JR東海労としての闘いは、労働者の結集を呼びかけ、連帯していく闘いをつくり出していくことにあります。

私たちが漠然とある企業内労働組合像を壊し、新たな労働組合像をつくり出していくための意識の転換が必要です。それを実現したのがJS労働の結成です。組合員を明らかにしない新たな組織と組織形態をつくり出してきました。組織化の対象者に壁はありません。今日の連合労働運動は、企業防衛のための捨て石でしかありません。この労働組合の現実を私たちは否定します。この現実を変えていくために、私たちは意識を転換しなければなりません。それが企業内労働組合からの脱却であり、JR総連からの脱却です。私たちは少数であっても、少数派ではないことに胸を張って、堂々とこの道を

進んでいきたいと思えます。その上で、よりJR東海労としての闘いの拡大と組織を強化していくために、JRひがし労と連携して取り組みを進めたいと考えています。私たちJR東海労と同じ志を持って闘っている労働組合であるからです。私たちと同じく組織破壊者としてJR東海労から除名にされた高崎地本の組合員が中心になってつくられた労働組合です。当時JR東海労として組織破壊者とされたJRひがし労への支援はできませんでした。その反省の上で、JR総連が労働者の連帯を否定している現実を乗り越えていくために、JRひがし労の仲間との連携、連帯した取り組みを強化していきたいと思えます。JRひがし労は、JR東海労を除名された後においても、労働条件の改善の闘いや、平和・人権を守るための闘いを力強く取り組んでいきます。組織化の実践を、様々な取り組みを通じて学び、組織拡大を実現していきたいと思えます。私たちが、運動の幅を広げながら組織化を進めていくことがこれからの方向です。その闘いの先にJR東海労の未来が必ず拓けると思えます。

JR連合は6月10〜11日に定期大会を開催します。【2面につづく】

す。「運動の基調」において、「JR総連への革マル派浸透問題は依然として解決していない」とした上で、新たな展開として「JR東海労が関西新幹線サービックでJRサービック労働組合を立ち上げ、組織拡大への懸念が大きくなった。そのため必要に応じて加盟単組の組合員範囲の見直し、労働組合の組織化を

クーラー設置を勝ち取る！

J S 労柳楽委員長



J S 労は、今も春の闘いを継続中です。サービックが回答したベアは、社員8,000円、契約社員1万円です。J S 労の2万円の要求からすると低額なので、4月26日に再申し入れしました。その団交を5月20日に開催すると決まったのが5月12日です。サービック労組が妥結したと報じたのが翌13日です。サービック労組は、J S 労の再々申し入れを受けて、会社から「いい加減に妥結しろ」と尻を叩かれたのだと考えられます。

23日に妥結通告しましたが、ボーンナスだけは妥結するわけにはいきませぬ。社員と契約社員では余りにもその差が大きいです。社員2.5ヶ月に対して契約社員は1ヶ月です。ここだけは何とかしなければならぬと議論して、要求を2ヶ月に下げて再々申し入れを行いました。その団交が6月10日の予定です。すでに、サービック労組が妥結していますから、進展は望めません。しかし、諦めたら何事も変わりません。奮闘します。

このような情勢を置きつつ、しつかりとJR東海労の組織拡大に向けて奮闘したいと思えます。私たちが進むべき道はハッキリしています。私たち一人ひとりの闘いがJR東海労の闘いです。組合員が少なくても労働者を守るための闘いはつづけます。置かれた場所です。自信を持って闘いを進めていきましょう。

申し入れをしました。会社は、「直ぐに現場に行つて、新しい空調に取り替える」と言いましたが、いくら待っても取り替えません。前田書記長が本社に問い合わせし、「暑さ対策は会社が責任を持つて行う」と回答しました。5月20日の団交でも一度訴えたところ、同じような回答に終始しました。これは、ぜんぜんやる気がない、社員に対する安全配慮義務に反することだと判断し、労基署に行きました。

労基署の担当者は、申告を受理して、職場に調査にはいることを約束しました。6月3日、担当者から前日の6月2日に事業所に状況確認に入り、「指導ではないが、お願いベースで改善を求めた」と報告が来ました。そして、6月5日にスポットクーラーの設置が実現しました。

このように、諦めずにできることをやることは、OB会解散の理由の

で、少しですが要求を実現しています。更なる組織拡大を実現していくために奮闘していきます。

4地本OB会新体制確立！

本部OB会増田会長



J R 東海労の運動を支持し共に闘う、本来のOB会に生まれ変わることでできました。JR総連からの組織破壊攻撃に対して、組合員の皆さんに心から敬意を表します。以前のOB会は、JR総連に与する勢力で、JR総連の指示を受け、攻撃の中心を担ってききました。組織を混乱させたのは、一昨年9月18日、福島前OB会長が「OB会員の皆様へ」なる文書を出したからです。1月23日の臨時総会で提案する予定であった文書は、「OB会に運動体の組織方針を持ち込めばOB会は混乱」とありますが、OB会に運動体の組織方針をもち込んでOB会を混乱させたのは福島氏本人であることを忘れてはなりません。1月23日の臨時総会では、新たな役員体制を確立し、本部OB会の解散は阻止しました。

1つとして、「伊藤明男さんへの許し難い誹謗・中傷を見るに及んで」というのがあります。臨時総会で、「伊藤さんの見解を聞きたい」と発言する予定でした。方針書という公式文書に伊藤さんのことが書かれていたのが当たり前です。しかし、逃亡したので残念でした。

静岡地本OB会は、3月25日に臨時総会を開催し、新たな役員体制を確立しました。多くの先輩たちが連名で、此田前会長に退任を求める申し入れをいたしました。

5月30日、此田氏、福島氏は、静岡地本OB会を脱会し、「JR東海OB静岡さつき会」なる組織を結成すると、文書をOB会員に郵送しました。嘘・デマの情報です。OB会員に話を聞くと「会社と闘っている現職組合員をなぜ支持しないのか。なぜ会社が喜ぶことをやるのか」との声が上がりました。組織破壊を許さないために闘っているところでは、4地本OB会の体制が

れを出したことが大きな力となりました。OB会解散について此田前会長は、地本OB幹事会も開催せず、分会OB会にも連絡せず、一部役員で解散を決めてしまうなど、独善的な姿勢を許してはいけません。先輩たちは闘いました。

組織展望を切り拓くための発言相次ぐ

◆仲間の皆さんに支えられて、津崎裁判を闘っています。彼らの反労働者性を明らかにするため、新たにJR総連熊谷前書記長を提訴し、更に追い込んでいきます。

◆JR総連という小さな困いに囚われなくなつた私たちの運動と課題は、広範囲になつていきます。JR職場以外の組合員の悩みや問題や課題にどう向き合っていくのかです。JRだけではな

に、連帯・共闘を実現。拡大していきましょう。◆センラの動きは、組合運動が無いのかJR東海労OB会からの退会策が度々あり、悩み、苦しむ、一人では闘えない、誰か相談にのってほしい、どうにかしてほしいと思つている時に、共に闘う労働組合でなければなりません。労働者の権利と利益のために闘い、平和で安心して生きていける社会を実現するため

大会に寄せられたメッセージ (順不同)

袴田ひで子様、回転寿司ユニオン執行委員長・長友祐士様、JR東労働組合中央執行委員長・松下明様、ストップ・リニア訴訟 訴訟団長・川村晃生様、東濃リニアを考える会代表・原重雄様、ジャーナリスト・櫻田秀樹様、ジャーナリスト・井澤宏明様、浜松 袴田巖さんを救う市民の会、新聞うずみ火代表・矢野宏様、朝露館館主・関谷興仁様、元農林水産大臣・山田正彦様、映画監督・班忠義様



今田議長

◆業務改革について、要員計画の業務委員会でワンマン運転拡大は、飯田線で△40・関西線・武豊線で△40、計車掌△80と説明されました。会社は、しっかりと面談をしていると言っていますが、全て希望通りになることはありませぬ。車掌減は将来運転士養成の母体が減り、更なる要員逼迫が進みます。ワンマン運転に反対です。安全に関する設備も現状のままです。対策を貫徹しようとする会社に対して声を上げていきます。

◆オーバートーリズムのニュースを見聞きします。東京駅の混雑は、駅の収容能力を超えたと思えます。旅客・従業員の安全を脅かすものです。利益を生み出すことを最優先にしたことから発生したと考えます。

◆地本定期委員会の前日、本部OB会元福島会長から、1月23日本部OB会臨時総会の「臨時総会主意」「アクティブ」No.115が組合員・OBに郵送されました。「アクティブ」については、JR東海労ニュース、地本情報でデマを暴露・反論し、OB会員に訴えました。3月27日に、地本OB会第27回臨時総会が開催され、新役員体制とJR東海労と共に歩むことが確認されました。地本OB会旧役員の一部が、JR東海OB静岡さつき会なるものを起ち上げました。M組のJR東海労解散、労働組合運動潰しと合致して、このような会を起ち上げるよう誘導されたのだと思えます。彼らは逃亡するつもりが、組織破壊の先兵となつていきます。

◆「ACCES」No.720の淵上委員長の記事は、一言で言うならば痛快です。会社は、「新たな人賃制度については成果・取り組みを適切に評価していきます」とし、JR東海「会社を動かす」ができた」と実感を得ました」と、労使一体との姿勢を明らかにしています。それに対して、淵上委員長は「新制度では『降格』を明確に打ち出した・・・ドラックの対象は東海労や国労だと安心しているのでは、早晩ユニオン組合員にも向けられると警鐘を鳴らしておきたいと思えます」、春闘総括にしても「なぜ8,000円で決着できるのか」と、パッサリじゃないですか。

◆瑞浪市、春日井市における水涸れ、地盤沈下という現象を目の当たりにし、沈黙しては会社の共犯者となつてしまします。私たちは共犯者にはならないとして、OBであり「東濃リニアを考える会」代表の原重雄さんに相談をし、「春日井リニア新幹線を問う会」の事務局長を務める川本正彦さんを紹介してもらいました。地本主催で学習会を開催しました。学習会は、原さんと川本さんの2人から講演を受けました。その前段において、川本さんの案内で、現地の春日井市内の民家にお邪魔しました。つくり出した関係性を深め、リニア反対の闘いを更に推し進めます。

◆ひがし労との連帯・連携について賛成です。今後は地本内でしっかりと議論をしていきます。

◆3月5日、車両に手歯止めをする際、すぐ横にある通路線との間の防護柵にフェンスを取り付けていたステンレスバンドの端部で手の甲を切り、18針縫うという大怪我をし、救急車で搬送されました。しかも、治療を終えた本人を帰宅させずに現場検証に立ち合わせたのです。地本は団体交渉を申し入れましたが、会社は拒否し、5月16日の業務委員会での回答となりました。会社は、この労災に関する労災情報22号を掲示しました。「体が接触する箇所を十分に確認しなかつたため」と、ケガをした社員にも責任があるような書き方です。後日、「社員は悪くない。この項を削除して再発行しろ！」と反論し情報を発行しました。

◆2025春闘で、本日は低額回答であると追及しました。「総合的に判断した精一杯の回答だ」と主張した会社は、決算発表で過去最高の運輸入入でした。一方で今年度の業績見通しは、「人件費の上昇などから最終利益は減益になる」と見込み、賃金や手当を抑制して、よくそんな怒りが言えたものだと思つていきます。今後は会社のペテンを暴露します。

◆地本は経営協議会で、「会社は『昨今、眠気や意識低下による事故が発生している』として、しかし現実には、休憩時間の少ない行路、睡眠時間の少ない行路、明けの拘束時間が長い行路、終了時間の遅い日勤行路、それに加え、業研、ワンステップ、プロジェクト等があり、皆疲弊している。休憩時間には若い人でも伏せて寝ている。これは、事象が発生する前からであり、それだけ疲弊しているということだ。更に、年休が慢性的に入らないことも休養に大きく関わっていると考えます。休養の観点からも、要員を増やすべきである」と追及しました。

◆2025年度要員計画の業務委員会で、次々と会社のシステム化・省力化施策が明らかになりました。駅関係の見直しは利用者サービスや緊急時の対応など、乗務員サイドからしても大きな不安が伴います。申し入れ等を行います。

◆三島沼津間、豊橋(浜松間で315系ワンマン運転が計画されています。会社は「我が社が初めて導入する装置で、運転席モニターに画像や音などをミックスさせて注意喚起を促すようなことを考えている」としか回答していません。私たちが考える安全と、会社が言っている「安全」とは乖離があります。私たちの感性を發揮して、業務の闘いを進めます。

◆JR総連は、JS労と組合員を守るための運動を認めず、加盟単組とその組合員を欺し嘘をついて、JR東海労に介入して組織破壊行為を繰り返し、私たちを組織破壊者から排除しました。JR総連の非人間的で反労働者の性質を暴き出し、それを許さない己をつくっていくことが問われています。全ての価値基準は、労働者の利益のために、仲間のために何をすべきかです。「志を同じくする労働者・市民・団体の仲間と連携・連帯すること」を、私たちのスローガンとして進むことが問われています。「ACCES」の淵上委員長インタビュー記事の「平和でも人権でも取り組みが同じ方向を向いていた、接点があったりすれば手を握ることにためらいはありません」は、納得しています。

◆訪日旅客が増加し、既存の交通機関の設備が追いつかず、障がいを持った方々が旅行しづらくなつていきます。いくつかの障害者団体と会社、私たちがオプザーバー参加し、駅設備の検証が行われました。その結果、改善すべき問題が明らかになり、前国交大臣に意見交換の場の申し入れを行いました。

◆1月28日、地本OB会臨時総会で、旧地本OB会幹事会によるOB会丸ごとセンラへという目論見を打ち砕き、地本OB会は再建されました。JR東海労と共に連帯することが確認されました。6月29日には定期総会を開催します。

◆JR総連の呪縛から解放され、企業内労働運動に留まらず、連帯の輪を広げる新たな闘いを展開しています。地本は5月20日、「東海道新幹線の歴史を語る会」を開催しました。OBの堀江實さんから、東海道新幹線開業時の様子や苦労話などを聴くという催しで、JR東海労以外の仲間と交流しました。

◆闘う労働組合の存在が問われている昨今、ひがし労はJR総連とJR東海労が御用組合に変質したことを批判して、袂を分かちました。今後は、交流を通じているる学び、組織強化・拡大に結び付けたいと考えています。

志を同じくする仲間と連帯しよう！

本橋書記長総括答弁(要旨)



第42回臨時大会以降、JR東海労らしい闘いの再スタートを切りました。今大会は、志を同じくする仲間と共に「東海の地に労働運動の灯を燃やし続ける」闘いに更に邁進する結節点になったことが確認できました。

私たちは、JS労結成・労働者の連帯・組織拡大の成果を全く認めようとしないうちにJR総連から様々な組織破壊攻撃を受けてきました。JR総連は変質しました。組合員がパワハラを受けようが差別されようが、前面に立って闘いません。JR総連は「JR北海道労組とJR貨物労組が存続すれば良い」「会社と共に向まくやる」ことしか考えていません。JR東海労のように会社と闘っては困るし、「関西だから」などとレッテルを貼って排除してきたのです。JR総連の枠に囚われない今、私たちは組織拡大に向けて大胆に取り組むと決まっています。他労組合員の獲得が第一です。

私たちはJR東労組を脱退して結成したJRひがし労について、JR総連から「組織破壊者」とすり込まれましたが、皆さんの発言にあったように、そうではありませんでした。その志は反戦・平和、御用組合化を許さないなど、私たちの目指すところと変わりません。今後、志を同じくする仲間としてJRひがし労との共同行動を追求していきたいと考えます。

本部は労働者支援相談センターを開設しました。多くの相談を受けてきました。相談内容は不当解雇やパワハラ等です。本部は各地本の仲間、OBの組合員と連携して、あらゆる知識と行動力をもって問題の解決を図っていきます。他にも労働条件の向上や企業による不当労働行為に立ち向かう労働組合への支援・連帯もつくり出してきました。今後も関係をつくり出します。

これからの取り組みは、かつて当時のJR総連榎本委員長が「JRでなければJR総連ではない」と私たちの闘いを否定したように、JR総連に加盟しては実現できません。私たちはJR東海労の未来をつくるために、JR東海ユニオン組合員の獲得、関係会社労働者の組織化、OBとなつた組合員の拡大を柱としつつ、JR東海労連運動の発展と同時に、志を同じくする全ての労働者・市民・団体の仲間と連携・連帯し、企業内労働組合の枠を乗り越えたJR東海労運動を押し進めます。私たちはJR総連を脱退しても、決して孤立していません。

私たちの闘う課題は沢山あります。業務改革に

よる大効率化について、今年度は名古屋地区の在来線でワンマン化により要員削減が行われようとしていますが、リニア建設に反対する闘いについても、名古屋地本は「ストップ・リニア中央新幹線建設!」学習会を開催し、OBであり「東濃リニアを考える会」代表の原重雄さん、「春日井リニア新幹線を問う会」事務局長の川本正彦さんから講演を受けました。最近マスコミ報道にもあつた通り、岐阜県瑞浪市における水位低下について、会社は「水位の回復は見込めない」として工事がストップしていま

す。私たちは地域住民に多大な損害と不安を与えるリニア中央新幹線建設に反対する闘いをあらゆる仲間と更に進めます。世界では未だに戦争が続いており、収束していません。日本国内においては、戦争をする国づくりが着々と進められています。7月には第27回参議院議員選挙が行われます。JR東海労として、明確に憲法9条改悪に反対する推薦候補者を検討しています。

東海の地に労働運動の灯を消すことなく赤々と燃やし続けるために、本部は組合員と共に全力で闘いをつくり出します。

嘘・デッチ上げは許さない! 熊谷JR総連前書記長提訴!

津崎裁判原告の渡邊幹夫さん、小林國博さんは6月12日、熊谷JR総連前書記長を相手取り、名誉棄損で200万円(原告それぞれ100万円ずつ)の損害賠償を求めて大阪地裁に提訴しました。

津崎被告は、虚偽の事実で新幹線関西地本組合員たちを組織破壊者と規定した文書を作成し、その文書による報告に基づいてJR総連も組織破壊者と確認しました。文書を作成した津崎被告が組合員の名誉を毀損したの

ですが、「津崎裁判」被告第1書面で「JR総連近畿地方協議会第35回定期委員会の様子は、JR総連には、そこに出席していたJR総連の熊谷書記長によって報告がなされ、それに基づいて対応が検討された」と主張しました。従って、名誉棄損の原因がJR総連の熊谷前書記長にもあることから、原告2名は、熊谷前書記長を提訴する判断をしました。



この裁判は、勤務割りで確定した年休にもかかわらず、会社が診断書を強要したことが発端です。組合は、年休に関する団体交渉を拒否する会社を糾弾するため、都労委に救済を申し立てました。都労委は組合の主張を全面的に受け入れた救済命令を出しましたが、中労委では会社の主張を受け入れる反動命令を出したため、東京地裁に提訴しました。

東京地裁は「中央労働委員会が中労委令和元年(不再)第44号事件について令和3年12月15日付で発した命令を取消す」と、勝利判決を出しました。国は控訴し、会社は訴訟参加してきました。判決は8月27日です。

環境破壊の数々、反対の決意あらたに!

名古屋地本がリニア学習会開催

名古屋地本は5月31日、名古屋市内で「ストップ・リニア中央新幹線建設!」学習会を開催しました。各地本からも参加されました。

松山委員長は「東濃リニアを考える会でOBの原重雄さんに相談し、『春日井リニアを問う会』事務長の川本正彦さんを紹介され、川本さん説明のもとGW明けに現地踏査した。現地でもリニア建設

工事の悪影響を見た。会社に経営協議会などで建設中止を主張し続ける」と挨拶しました。

講演では、原さんと川本さんより問題提起がされました。原さんからは、「ストップ・リニア!訴訟」の経過報告、岐阜県内ルート・施設の工事状況及び発生残土が与える影響、環境保全問題などの報告を受けました。川本さんからは、深刻化する岐阜県大湫町の水涸れと地盤沈下、春日井市明知町において発破振動による地下水脈の影響で水涸れ、更には今後予想される地盤沈下や陥没事故など、多岐にわたる説明を受けました。

講演を受け、ディスカッションを行い、発言者からは講演へのお礼と改めてリニアの闘いを押し進めていく決意が語られました。

不当労働行為は確実に!

診断書強要行政訴訟控訴審結審

診断書強要行政訴訟控訴審は6月9日、組合、国(中労委)、会社の三者からの主張が尽くし